

IMAGE FORMING DEVICE

Citation 4

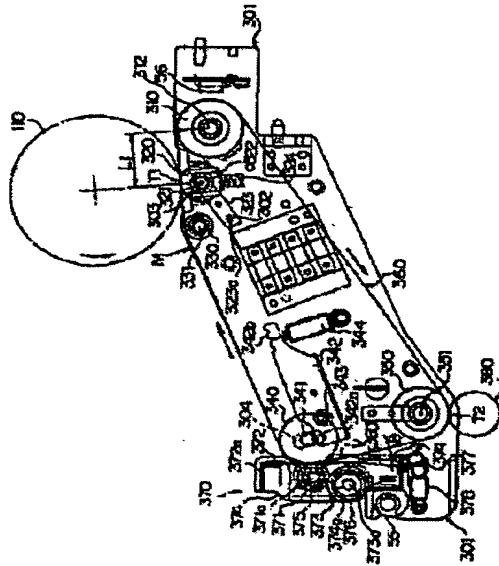
Publication number: JP2002311724
Publication date: 2002-10-25
Inventor: ISHIWATARI TAHEI; OSAWA TATSURO; TAKAHATA TOSHIYA; ITO HIROSHI; OKAMURA TAKEHIKO; ABE NOBUMASA
Applicant: SEIKO EPSON CORP
Classification:
- International: G03G9/08; G03G15/01; G03G15/16; G03G9/08;
G03G15/01; G03G15/16; (IPC1-7): G03G15/16;
G03G9/08; G03G15/01
- European:
Application number: JP20020015125 20020124
Priority number(s): JP20020015125 20020124

[Report a data error here](#)

Abstract of JP2002311724

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent voids at the time of transfer, and also, to satisfactorily transfer images to a rough paper.

SOLUTION: In the image forming device constituted of an intermediate transfer unit for primarily transferring a toner image formed on a photoreceptor 110 to an intermediate transfer belt 360 by a primary transfer roller 320, and then, secondarily transferring the toner image to a recording medium by a secondary transfer roller 380, the circumferential speed of the photoreceptor 110 is made to differ from the circumferential speed of the intermediate transfer belt 360, the looseness apparent density of toner is $>=0.35$ g/cc, and the shape coefficient SF-1 of the toner is $<=150$ and the shape coefficient SF-2 is $<=140$.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

No family

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2002-311724
(P2002-311724A)

(43) 公開日 平成14年10月25日(2002. 10. 25)

(51) Int.Cl.⁷ 識別記号
G 0 3 G 15/16
9/08
15/01 1 1 4

F I		マークド(参考)
G 0 3 G	15/16	2 H 0 0 5
	9/08	2 H 0 3 0
	15/01	1 1 4 A 2 H 2 0 0

審査請求 有 請求項の数 2 OL (全 14 頁)

(21)出願番号 特願2002-15125(P2002-15125)
(62)分割の表示 特願平9-46464の分割
(22)出願日 平成9年2月28日(1997.2.28)

(71) 出願人 000002369
セイコーエプソン株式会社
東京都新宿区西新宿2丁目4番1号

(72) 発明者 石渡 太平
長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコ
ーエプソン株式会社内

(72) 発明者 大澤 達朗
長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコ
ーエプソン株式会社内

(74) 代理人 100095120
弁理士 内田 亘彦 (外7名)

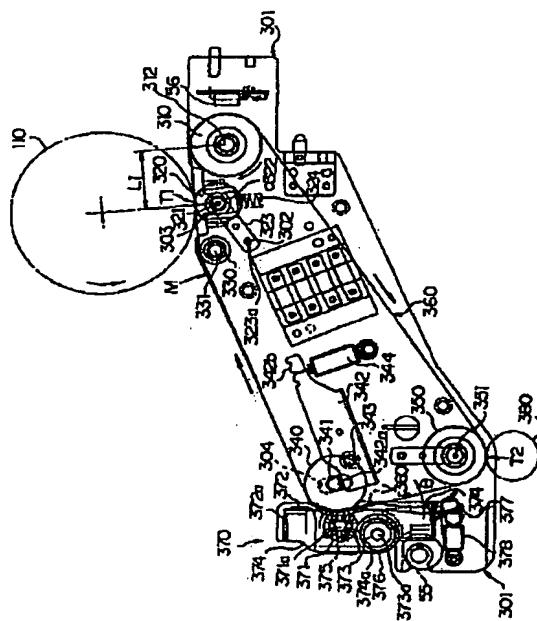
最終頁に統く

(54) [発明の名称] 画像形成装置

(57) 【要約】

【課題】 転写時の中抜けを防止しするとともに、ラフ紙への良好な転写を実現する。

【解決手段】 感光体 110 上に形成されたトナー像を中間転写ベルト 360 に一次転写ローラ 320 により一次転写し、このトナー像を二次転写ローラ 380 により記録媒体に二次転写する中間転写ユニットとからなり、感光体 110 の周速と中間転写ベルト 360 の周速とに速度差を設けた画像形成装置であって、トナーの継み見掛け密度が 0.35 g / cc 以上、かつ、前記トナーの形状係数 SF-1 が 150 以下、かつ、SF-2 が 140 以下とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 感光体上に形成されたトナー像が一次転写位置において一次転写され、このトナー像をさらに記録媒体に二次転写位置において二次転写する中間転写ベルトと、前記一次転写位置において前記中間転写ベルトは前記感光体と前記中間転写ベルトの内側に配置される一次転写手段により圧接されると共に、前記二次転写位置において前記中間転写ベルトは前記中間転写ベルトの内側に配置されるバックアップ手段と前記中間転写ベルトの外側に配置される二次転写手段により圧接され、更に、前記中間転写ベルトの内側に配置されて中間転写ベルトを駆動する駆動ローラが配置される中間転写ユニットとからなり、前記感光体の周速と前記中間転写ベルトの周速とに速度差を設け、前記一次転写位置と前記駆動ローラとの間ににおける中間転写ベルトを常に張り状態とした画像形成装置であって、前記トナーの緩み見掛け密度が0.35g/cc以上、かつ、前記トナーの形状係数SF-1が150以下、かつ、SF-2が140以下であることを特徴とする画像形成装置。

【請求項2】 駆動ローラが、前記一次転写位置と前記二次転写位置との間に配置され、感光体の周速に対して中間転写ベルトの周速を早くしたことを特徴とする請求項1記載の画像形成装置。

【請求項3】 前記二次転写手段の荷重を前記一次転写位置の荷重より高くしたことを特徴とする請求項1記載の画像形成装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電子写真技術を用いて画像を形成するプリンター、ファクシミリ、複写機等の画像形成装置に用いられる中間転写ユニットに関するものである。

【0002】

【従来の技術】一般に、電子写真技術を用いた画像形成装置は、外周面に感光層を有する感光体と、この感光体の外周面を一様に帯電させる帯電手段と、この帯電手段により一様に帯電させられた外周面を選択的に露光して静電潜像を形成する露光手段と、この露光手段により形成された静電潜像に現像剤であるトナーを付与して可視像（トナー像）とする現像手段と、この現像手段により現像されたトナー像を用紙等の転写媒体に転写させる転写手段とを有している。

【0003】そして、感光体上に現像されたトナー像を用紙等の転写媒体に転写させる転写手段としては、従来、感光体上に形成されたトナー像が転写（一次転写）され、このトナー像をさらに記録媒体に転写（二次転写）する中間転写ベルトを備えたものが知られている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上述した従来の転写手段では、一次あるいは二次転写において、転写効率の低

下や、転写時のトナー像の一部欠落（いわゆる中抜け）が発生するという問題がある。また、二次転写においては、再生紙やボンド紙などの表面の凹凸が大きな記録媒体へも画像欠陥を生じさせることなく転写することが難しいという問題がある。特に、高流動性のトナーを用いる場合には、転写時にトナーの散りが生じやすく、特に、転写位置に転写電圧を印加するための転写電極として機能する一次あるいは二次転写手段がそれぞれの転写位置から離れた位置に存在する場合には、転写位置における転写電界を転写位置に集中することが出来ずに静電気力によりトナー像が散りを生じたり、また、感光体あるいは記録媒体に対し中間転写ベルトを転写位置において実質的に付勢する手段を有さずに、例えば感光体に対し中間転写ベルトを巻き付けた構成とする場合には、感光体と中間転写ベルトとの転写位置における接触面積が大きく、両者の僅かな速度差等に起因する機械的力によるトナー像の乱れが生じやすいという問題がある。

【0005】本発明は以上のような問題を解決しようとするもので、その目的は、転写の中抜け等の画像欠陥のない良好な画像を形成可能な中間転写ユニットを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために請求項1記載の画像形成装置は、感光体上に形成されたトナー像が一次転写位置において一次転写され、このトナー像をさらに記録媒体に二次転写位置において二次転写する中間転写ベルトと、前記一次転写位置において前記中間転写ベルトは前記感光体と前記中間転写ベルトの内側に配置される一次転写手段により圧接されると共に、前記二次転写位置において前記中間転写ベルトは前記中間転写ベルトの内側に配置されるバックアップ手段と前記中間転写ベルトの外側に配置される二次転写手段により圧接され、更に、前記中間転写ベルトの内側に配置されて中間転写ベルトを駆動する駆動ローラが配置される中間転写ユニットとからなり、前記感光体の周速と前記中間転写ベルトの周速とに速度差を設け、前記一次転写位置と前記駆動ローラとの間ににおける中間転写ベルトを常に張り状態とした画像形成装置であって、前記トナーの緩み見掛け密度が0.35g/cc以上、かつ、前記トナーの形状係数SF-1が150以下、かつ、SF-2が140以下であることを特徴とする。

【0007】

【作用効果】本発明の中間転写ユニットによれば、一次転写手段及び二次転写手段をそれぞれの転写位置において中間転写ベルトに圧接させることにより転写時の中抜けを防止し、再生紙やボンド紙などの表面の凹凸が大きな記録媒体にも良好に転写を行うことができる。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。

【0009】図1は本発明に係る中間転写ユニットの一実施の形態を用いた画像形成装置の一例を示す模式図である。

【0010】先ず、この画像形成装置の概要について説明し、次いで、主として中間転写ユニットについて詳しく述べる。

【0011】この画像形成装置は、イエロー、シアン、マゼンタ、ブラックの4色のトナーによる現像器を用いてフルカラー画像を形成することのできる装置である。

【0012】図1において、50は装置本体のケースであり、このケース50内に、露光ユニット60、給紙装置70、感光体ユニット100、現像ユニット200、中間転写ユニット300、定着ユニット400、およびこの装置全体の制御を行なう制御ユニット80、等が設けられている。

【0013】感光体ユニット100は、感光体110と、この感光体110の外周面に当接して外周面を一様に帯電させる帯電手段としての帯電ローラ120と、クリーニング手段130とを有している。

【0014】現像ユニット200は、現像手段として、イエロー用の現像器210Y、シアン用の現像器210C、マゼンタ用の現像器210M、ブラック用の現像器210Kを備えている。これら各現像器210Y、210C、210M、210Kは、それぞれ内部にイエロー、シアン、マゼンタ、ブラックのトナーを内蔵している。また、それぞれ現像ローラ211Y、211C、211M、211Kを備えており、いずれか1つの現像器の現像ローラのみが感光体110に当接し得るようになっている。

【0015】中間転写ユニット300は、駆動ローラ310と、一次転写手段である一次転写ローラ320と、歯取りローラ330と、テンションローラ340と、バックアップローラ350と、これら各ローラの回りに張られた無端状の中間転写ベルト360と、この中間転写ベルト360に対して接離可能なクリーニング手段370とを有している。

【0016】バックアップローラ350には、二次転写手段である二次転写ローラ380が対向配置されている。この二次転写ローラ380は、支軸381で揺動可能に支持されたアーム382に回転可能に支持されており、アーム382が、カム383の作動で揺動することによって、中間転写ベルト360に対して接離するようになっている。

【0017】駆動ローラ310は、その端部に歯車311(図3参照)が固定されており、この歯車311が、感光体ユニット100の歯車144(図3参照)と噛み合っていることによって、感光体110と略同一の周速で回転駆動され、したがって中間転写ベルト360が感光体110と略同一の周速で循環駆動されるようになっている。

【0018】中間転写ベルト360が循環駆動される過程で、一次転写ローラ320と感光体110との間ににおいて、感光体110上のトナー像が中間転写ベルト360上に転写され、中間転写ベルト360上に転写されたトナー像は、二次転写ローラ380との間に供給される用紙等の記録媒体Sに転写される。記録媒体Sは、給紙装置70から供給される。

【0019】給紙装置70は、複数枚の記録媒体Sが積層状態で載置されるトレイ71と、ピックアップローラ72と、トレイ71上に載置された記録媒体Sをピックアップローラ72に向けて付勢するホッパ73と、ピックアップローラ72により給送される用紙を確実に1枚ずつに分離する分離ローラ対74とを有している。

【0020】給紙装置70により給送された記録媒体Sは、第1搬送ローラ対91、第1用紙センサ91S、第2搬送ローラ対92、第2用紙センサ92S、ゲートローラ対93を経て前記第2転写部すなわち中間転写ベルト360と二次転写ローラ380との間に供給され、その後、定着ユニット400、第1排紙ローラ対94、第2排紙ローラ対95を経てケース50上に排出される。

【0021】定着ユニット400は、熱源を有する定着ローラ410と、これに圧接されている加圧ローラ420とを有している。

【0022】以上のような画像形成装置全体の作動は次の通りである。

【0023】(i) 図示しないホストコンピュータ(パソコンコンピュータ等)からの印字指令信号(画像形成信号)が制御ユニット80に入力されると、感光体110、現像ユニット200の現像ローラ等、および中間転写ベルト360が回転駆動される。

【0024】(ii) 感光体110の外周面が帯電ローラ120によって一様に帯電される。

【0025】(iii) 一様に帯電した感光体110の外周面に、露光ユニット60によって第1色目(例えればイエロー)の画像情報に応じた選択的な露光しがなされ、イエロー用の静電潜像が形成される。

【0026】(iv) 感光体110には、第1色目(例えればイエロー)用の現像器210Yの現像ローラ211Yのみが接触し、これによって上記静電潜像が現像され、第1色目(例えればイエロー)のトナー像が感光体110上に形成される。

【0027】(v) 感光体110上に形成されたトナー像が、一次転写部すなわち、感光体110と一次転写ローラ320との間ににおいて中間転写ベルト360上に転写される。このとき、クリーニング手段370および二次転写ローラ380は、中間転写ベルト360から離間している。

【0028】(vi) 感光体110上に残留しているトナーがクリーニング手段130によって除去された後、50 除電手段からの除電光L'によって感光体110が除電

される。

【0029】(vii) 上記(ii)～(vi)の動作が必要に応じて繰り返される。すなわち、上記印字指令信号の内容に応じて、第2色目、第3色目、第4色目、と繰り返され、上記印字指令信号の内容に応じたトナー像が中間転写ベルト360上において重ね合わされて中間転写ベルト360上に形成される。

【0030】(viii) 所定のタイミングで給紙装置70から記録媒体Sが供給され、記録媒体Sの先端が第2転写部に達する直前にあるいは達した後に（要するに記録媒体S上の所望の位置に、中間転写ベルト360上のトナー像が転写されるタイミングで）二次転写ローラ380が中間転写ベルト360に押圧され、中間転写ベルト360上のトナー像（基本的にはフルカラー画像）が記録媒体S上に転写される。また、クリーニング手段370が中間転写ベルト360に当接し、二次転写後に中間転写ベルト360上に残留したトナーが除去される。

【0031】(ix) 記録媒体Sが定着ユニット400を通過することによって記録媒体S上にトナー像が定着し、その後排紙ローラ対94、95を経て記録媒体Sがケース50上に排出される。

【0032】以上、画像形成装置の概要について説明したが、次に主として中間転写ユニット300の詳細について説明する。

【0033】図2は主として中間転写ユニット300を示す一部省略側面図である。

【0034】前述したように中間転写ユニット300は、駆動ローラ310と、一次転写ローラ320と、歯取りローラ330と、テンションローラ340と、バックアップローラ350と、これら各ローラの回りに張られた無端状の中間転写ベルト360と、この中間転写ベルト360に対して接離可能なクリーニング手段370とを備えており、これら各部材等は、図2に示すように、フレーム301に取り付けられている。

【0035】フレーム301は、一対の側板（図2では手前側の側板を省略してある）からなっており、その側板間に上記各部材等が取り付けられている。逆にいえば、一対の側板が上記各部材の軸によって連結されている構造となっている。なお、図2においては、以下で説明される一対の部材については、その手前側のものが全て省略されている。

【0036】駆動ローラ310は、軸312によってフレーム301に回転可能に支持されており、その一端に前述した歯車311（図3参照）が固定されており、この歯車311が、感光体ユニット100の歯車144と噛み合っていることによって、感光体100と略同一の周速で回転駆動されるようになっている。なお図3において、500は駆動モータであり、その出力軸501に固定されたピニオン510が減速歯車520を介して感光体110端部に設けられた歯車144と噛み合ってい

ることによって、感光体110が回転駆動されるようになっている。また、歯車311は、中間歯車520および減速歯車521を介して、感光体ユニット100（図1参照）のトナー搬送スクリュー133の駆動歯車133bと噛み合っており、これによってトナー搬送スクリュー133が回転駆動されるようになっている。

【0037】図2に示すように、一次転写ローラ320は、その軸321が、一対の軸受部材322を介してフレーム301に回転可能に支持されている。一次転写ローラ320に電圧を印加するための電極板323は、その長穴323aがフレーム301に設けられネジ穴302にネジ止めされることにより支持されている。また、軸受部材322は、フレーム301に設けられた凹所303にスライド可能（図2で上下動可能）に支持されているとともに、この軸受部材322とフレーム301との間には付勢手段としての圧縮コイルバネ324が設けられている。

【0038】したがって、一次転写ローラ320は、その軸321の両端が一対の圧縮コイルバネ324によって付勢されることによって、中間転写ベルト360を介して感光体110に圧接される。

【0039】歯取りローラ330は、その軸331によってフレーム301に回転可能に支持されている。

【0040】テンションローラ340は、その軸341が、フレーム301に設けられた長穴304に対して回転可能かつスライド可能に支持されている。軸341には、その両端部分において一对のアーム342の一端342aが当接している。アーム342は、軸343でフレーム301に対して揺動可能に支持されており、その他端342bと、フレーム301との間に引っ張りバネ344が設けられている。

【0041】したがって、テンションローラ340は、この引っ張りバネ344により、アーム342を介して常時中間転写ベルト360を張る方向に付勢されている。

【0042】バックアップ手段であるバックアップローラ350は、その軸351によってフレーム301に回転可能に支持されている。

【0043】中間転写ベルト360は、上記各ローラ310、320、330、340、350の回りに張られており、駆動ローラ310によって図2において矢印方向（時計方向）に循環駆動される。

【0044】クリーニング手段370は、中間転写ベルト360の外周面に残留し付着しているトナーを払い落とすファーブラシ371と、さらに中間転写ベルト360の外周面に残留し付着しているトナーを掻き落とすクリーナブレード372と、これらファーブラシ371あるいはクリーナブレード372によって払い落とされあるいは掻き落とされたトナーを搬送する搬送手段としてのトナー搬送スクリュー373とを備えており、これら

各部材はケース374に組み込まれている。

【0045】ケース374の下部には、トナー回収室375が形成されており、このトナー回収室375内に、前記ファーブラシ371、クリーナブレード372、およびトナー搬送スクリュー373が配置されている。

【0046】ファーブラシ371は、ケース374の側板を貫通する軸371aに固定され、この軸371aが図示しない駆動手段によって駆動されることによって、図2矢印方向に回転駆動される。

【0047】クリーナブレード372は、取付板372aによってケース374に取り付けられており、その先端（下端）が中間転写ベルト360外周面に当接してトナーを掻き落とすようになっている。

【0048】トナー搬送スクリュー373は、ケース374の側板を貫通する軸373aが図示しない駆動手段によって駆動されることによって、図2矢印方向に回転駆動され、トナー回収室375内に回収されたトナーを廃トナーとして、図示しない廃トナーボックスに搬送する。

【0049】ケース374は、その両側面に設けられた円筒部374aが、軸受部材376を介してフレーム301に回動可能に支持されている。

【0050】ケース374の下端両側には、フック377が取り付けられており、このフック377とフレーム301との間に引っ張りバネ378が設けられている。

【0051】したがって、この引っ張りバネ378によって、ケース374は、ファーブラシ371およびクリーナブレード372が中間転写ベルト360に対して圧接される方向（時計方向）に常時付勢されているが、中間転写ユニット300には、カム55が設けられており（図1参照）、このカム55がケース374の下端と当接していることによって、ケース374の回動が規制されるようになっている。

【0052】カム55は、図示しない駆動手段によって駆動され、図2に示す位置にあるとき、ケース374を仮想線で示すように反時計方向に回動させ、ファーブラシ371およびクリーナブレード372を中間転写ベルト360から離間させるようになっている。

【0053】図2において、56は、駆動ローラ310に対向する位置となるように画像形成装置本体に設けられた位置検出センサであり（図1参照）、中間転写ベルト360の位置を検出すためのものである。

【0054】以上のような中間転写ユニット300は、画像形成装置本体に対して着脱可能となっている。

【0055】さらに、この実施の形態では、種々の工夫がなされ、あるいはなすことが可能があるので、以下それについて説明する。

【0056】<駆動ローラ310に関し>

(1) 駆動ローラ310の外径は、感光体110の周速に対して中間転写ベルト360の周速が僅かに（公差

の範囲内で）速くなるように構成してある。

【0057】感光体110の周速と、感光体110からトナー像が転写される中間転写ベルト360の周速とは、完全に一致していることが望ましい。

【0058】しかしながら、感光体110の外径および駆動ローラ310の外径には公差があるため、前記周速同士を完全に一致させることは不可能である。このような状況において、駆動ローラ310への巻掛け部分における中間転写ベルト360の周速が感光体110の周速よりも僅かに遅くなつたとすると、感光体110と一次転写ローラ320との圧接位置（一次転写位置T1）と、駆動ローラ310との間において、中間転写ベルト360に対しこれを弛ませようとする力が極僅かとはいえ作用することとなり、一次転写位置T1における中間転写ベルト360の状態が不安定となってしまう。

【0059】そこで、この実施の形態では、駆動ローラ310の外径を、感光体110の周速に対して中間転写ベルト360の周速が僅かに（公差の範囲内で）速くなるように構成した。

20 【0060】このように構成すると、感光体110と一次転写ローラ320との圧接位置（一次転写位置T1）と、駆動ローラ310との間において、中間転写ベルト360が、僅かではあるが常に張り状態となるため、一次転写位置T1における中間転写ベルト360の状態が安定することとなる。

【0061】なお、駆動ローラ310の外周面の振れ量は、±0.05mm以下とした。

【0062】(2) 中間転写ベルト360の周期が駆動ローラ310の周期の整数倍となるように構成した。

30 【0063】このように構成すると、駆動ローラ310の軸あるいは外周面の振れによって生じる、中間転写ベルト360上で重ね合わされる各色のトナー像の間におけるズレの量を低減することができる。

【0064】なお、具体的には、上記比率は5:1とした。

【0065】(3) 中間転写ベルト360の周期が感光体110の周期の整数倍となるように構成した。

【0066】このように構成すると、感光体110の軸あるいは外周面の振れによって生じる、中間転写ベルト360上で重ね合わされる各色のトナー像の間におけるズレの量を低減することができる。

【0067】なお、具体的には、上記比率は2:1とした。

【0068】(4) 駆動ローラ310に対する中間転写ベルト360の巻掛け角は、90°以上とし、かつ、他のローラに対する巻掛け角より大きくした。

【0069】このように構成すると、駆動ローラ310と中間転写ベルト360との摩擦係数が小さくても、あるいは長期使用によって小さくなつても、安定して中間転写ベルト360を駆動することができる。

[0070] なお、具体的には、上記巻掛け角は、15°程度とした。

[0071] また、駆動ローラ310の外周面には、摩擦係数を上げるために、ウレタンコートを施した。

[0072] <バックアップローラ350に関し>バックアップローラ350と二次転写ローラ380との圧接部、すなわち二次転写部T2(図2参照)における、中間転写ベルト360と記録媒体Sとの分離方式は、曲率分離方式とし、バックアップローラ350の直径をφ35mm以下、バックアップローラ350に対する中間転写ベルト360の巻掛け角度を90°以上とした。

[0073] このように構成することによって、記録媒体Sが中間転写ベルト360から確実に分離されるようになる。

[0074] なお、より望ましくは、バックアップローラ350の直径をφ30mm以下、バックアップローラ350に対する中間転写ベルト360の巻掛け角度を105°以上とする。具体的には直径をφ30mm、巻掛け角度を109°とした。

[0075] また、中間転写ベルト360の表面抵抗は、10¹²Ω以下とすることが望ましい。

[0076] <クリーニング手段370に関し>
(1) テンションローラ340を、バックアップローラ350に比べて、水平方向においてクリーニング手段370側に偏位させ(近づけ)、ファーブラシ371と中間転写ベルト360との当接部の下方にトナーハイド375の一部が開口する構成とした。

[0077] このように構成すると、ファーブラシ371によって払い落とされたトナーが、トナーハイド375に回収され易くなる。

[0078] より望ましくは、テンションローラ340とバックアップローラ350との間における中間転写ベルト360と鉛直線Vとのなす角度θ(すなわちテンションローラ340とバックアップローラ350の共通接線と鉛直線Vとのなす角度θ)を10°以上、さらに望ましくは15°以上とする。

[0079] このように構成すると、ファーブラシ371によって払い落とされたトナーが、トナーハイド375により確実に回収され易くなるとともに、クリーニング手段370が中間転写ベルト360から離間する際に落下するトナーもトナーハイド375内に回収され易くなる。

[0080] (2) クリーニング手段370の中間転写ベルト360に対する付勢力を受ける手段をテンションローラ340で兼用した。

[0081] このように構成することによって製造コストを削減することができる。また、これとは別にテンションローラを設ける必要がなくなり、ローラの本数を少なくすることができるので、各ローラが大きな巻掛け角をとれるようになる。

[0082] <皺取りローラ330に関し>皺取りローラ330を、一次転写位置T1に対し、中間転写ベルト360の循環方向上流側において近接させて配置し、皺取りローラ330に対する中間転写ベルト360の巻掛け角度を10°以上とした。

[0083] このように構成することによって、テンションローラ340と皺取りローラ330との間で中間転写ベルト360に生じる皺(皺取りローラ330からテンションローラ340方向を見たときの波打ち状態)を皺取りローラ330で除去し、一次転写位置T1における中間転写ベルト360の状態を平滑なものとすることができます。

[0084] なお、より望ましくは、皺取りローラ330に対する中間転写ベルト360の巻掛け角度を15°以上とする。具体的には17.6°とした。

[0085] また、皺取りローラ330に代えて、中間転写ベルト360の進行方向を10°以上変更させる手段(例えばガイド板等)を設けても良い。

[0086] <一次転写位置T1に関し>

20 (1) 一次転写位置T1において、中間転写ベルト360が感光体110に対して接線方向に直線的に張られるように、駆動ローラ310、一次転写ローラ320、および皺取りローラ330を配置した。

[0087] このような構成とすることによって、ベルトテンションによらず転写ニップを安定させることができる。仮に、一次転写ローラ320に対して中間転写ベルト360を巻掛け、その巻掛け部分において一次転写位置T1を形成したとすると、中間転写ベルト360の張力の変動が一次転写位置T1に与える影響が大きくなるが、中間転写ベルト360を一次転写ローラ320に巻掛けずに感光体110に対して接線方向に張る構成とすることによって、上記影響を低減することができる。

[0088] (2) 一次転写位置T1を駆動ローラ310に対して近接させて配置した。

[0089] 一次転写位置T1と駆動ローラ310との間の距離が大きくなると、この間における中間転写ベルト360の伸縮量がおおきくなってしまい、一次転写位置T1における中間転写ベルト360の走行速度が不安定になる。

40 [0090] そこで、この実施の形態では、一次転写位置T1を駆動ローラ310に対して近接させて配置することによって、一次転写位置T1における中間転写ベルト360の走行速度の安定化を図っている。

[0091] 一次転写位置T1と駆動ローラ310との間の距離L1(図2参照)は、より望ましくは40mm以下、より望ましくは、35mm以下とする。具体的には、30.5mm程度とした。

[0092] (3) 皺取りローラ330から駆動ローラ310までの中間転写ベルト360の直線部の長さを、アスペクト比で0.25以下、より望ましくは0.

15以下とする。

【0093】上記皺の影響をより効果的に抑制するためである。

【0094】なお、具体的には、上記直線部の長さを5.5mm程度とした。

【0095】<位置検出に関し>前述したように、位置検出センサ56を、駆動ローラ310に対向する位置に配置し、駆動ローラ310上で中間転写ベルト360の位置を検出するようにした。

【0096】これによって、中間転写ベルト360の走行周期を正確に検出することができる。

【0097】位置検出センサ56は、反射型の光センサとし、中間転写ベルト360上には、この位置検出センサ56によって検出されるべきマークを印刷によって設けた。

【0098】位置検出センサを透過型の光センサとし、これによって検出されるべき穴を中間転写ベルト360に開けた場合には、穴に応力が集中してその形状が変形するため、正確な検出を行なうことができなくなるおそれがあるが、この実施の形態では、位置検出センサ56を反射型の光センサとし、これによって検出されるべきマークを中間転写ベルト360上に印刷によって設けたので、中間転写ベルト360の走行周期を正確に検出することができる。

【0099】<中間転写ベルト360の張架構成等について>中間転写ベルト360の張架構成は、一次転写位置T1から二次転写位置T2までの間の中間転写ベルト360上の長さを、A4サイズの用紙の横方向長さ以上とし、二次転写位置T2から一次転写位置T1までの間の中間転写ベルト360上の長さについても、A4サイズの用紙の横方向長さ以上とした。すなわち、このような長さとなるように、中間転写ベルト360を張架した。

【0100】このような構成とすると、A4サイズの用紙に連続して印字する場合において、二次転写ローラ380を中間転写ベルト360に当接させたタイミングを用紙間に設定する、すなわち、一次転写中には二次転写ローラ380を当接させないようにすることができる。

【0101】一次転写中に二次転写ローラ380を中間転写ベルト360に当接させると、そのショックで一次転写による画像に乱れが生じるおそれがあるが、上記の構成とすることによって、このような事態を防止することができる。

【0102】<クリーニング手段370に関し>

(1) クリーナブレード372は、ウレタンゴム製とし、その自由長を8mm程度、厚みを3mm程度、ヤング率を7~9MPa程度、ホルダー角(無荷重状態でのブレードと、その当接位置におけるローラの接線とのなす角度)を20°程度、中間転写ベルト360への当接圧を45gf/cm程度とした。

【0103】このように構成すると、トナーのすり抜けや、ブレードの振動、めくり上がりによるクリーニング不良が生じないようにできる。

【0104】(2) ケース374とは別に廃トナーボックスを設けた。

【0105】このように構成すると、ケース374内に多量の廃トナーが溜まるということがなくなるので、ケース374を揺動させる際の負荷、および揺動させた後にケース374に作用する力の変動を低減させることができ、結果としてクリーナブレード372の中間転写ベルト360に対する当接圧を安定化させることができる。

【0106】(3) トナー搬送スクリュー373の軸373a(図2参照)を、ケースの回動中心とした。

【0107】このように構成すると、他の固定部材、例えばケース374の廃トナー撤出口と、廃トナーボックスのトナー受け入れ口との相対的位置関係を確保するのが容易になる。

【0108】(4) カム55は、SINカムとした。

【0109】このように構成することによって、中間転写ベルト360に対する衝撃を小さくすることができる。

【0110】<バッチセンシングに関し>バッチセンシング、すなわち、試し印字時のトナー量検出は、駆動ローラ310上の中間転写ベルト360で行なうようにした。

【0111】このように構成することによって、巻掛け角が大きく、速度的にも安定した場所で行なうことができる。

【0112】<ビードに関し>ビードは、中間転写ベルト360の裏面に循環方向に沿って設けられる突条であり、この突条を、ベルトが巻掛けられるローラに形成された凹溝(規制溝)に係合させることによって、ベルトの(ローラの軸線方向における)位置を規定するためのものである。

【0113】このビードは必ずしも設けなくても良いものであり、図2に示した実施の形態においても設けられてはいないが、設ける場合には、次のような構成とする。

【0114】(1) ビードとしてはシリコンゴムを用い、その厚さ(突出高さ)は1.5mm程度とし、幅は4mm程度とする。

【0115】(2) ビードの規制溝に対する摩擦係数は、いずれのローラに対する中間転写ベルト360の基材の摩擦係数よりも、小さくする。

【0116】このように構成することによって、ビードと規制溝との摩擦力によるベルト軸方向のテンション勾配の発生を低減することができる。

【0117】なお、ローラに対する中間転写ベルト360の基材の摩擦係数は0.4程度である。

13

【0118】(3) ビードの弾性強度は、 $E = 2.0 \sim 8.0 \text{ MPa}$ 程度とする。

【0119】柔らかすぎると規制部でのスラスト方向の応力が一箇所に集中し、それがビード接着部の狭い範囲に集中してしまうからである。

【0120】逆に硬すぎると、ベルトの曲がり部分に対するビードの関与が大きくなってしまうからである。

【0121】なお、より望ましくは、ビードの弾性強度は、

t_1 : ベルト膜厚

t_2 : ビード厚

E_1 : ベルトヤング率 ($\sim 4.0 \times 10^3 \text{ [MPa]}$) としたとき、

$1.0 \sim (t_1/t_2) 2 E_1 \text{ [MPa]}$ とする。

【0122】(4) ビード規制溝は、一次転写位置 T_1 に隣接していないローラに設ける。

【0123】このように構成すると、ビードと規制溝との接触によるランダムな中間転写ベルト 360 の変動によって、中間転写ベルト 360 上において重ね合わせられる各色トナー像間の位置ズレを低減することができる。

【0124】例えば、ビード規制溝は、バックアップローラ 350 の端部に、段付きのフランジを取り付けることによって構成する。

【0125】(5) ビード幅に対して、規制溝の幅を多少大きくし、ビード貼着の真直性に対してマージンを持たせる。

【0126】例えば、ビード幅が 4 mm 程度であれば、規制溝の幅は 4.2 mm 程度とする。

【0127】<中間転写ユニット 300 の交換、取扱いに関し>

(1) 中間転写ユニット 300 を机上等に置いたときに、中間転写ベルト 360 が机上面等と接触しない構造として、中間転写ベルト 360 の破損や異物付着を防止する。

【0128】(2) 中間転写ユニット 300 を机上等に置いたときに、駆動伝達部（例えば歯車 311 等）が机上面等と接触しない構造として、駆動伝達部の変形やの破損を防止する。

【0129】(3) 中間転写ユニット 300 の電極部を駆動伝達部の反対側に設けた構造として、電極の汚れや、接点不良を防止する。

【0130】(4) 中間転写ユニット 300 を装着しないと、感光体ユニット 100 を装着することができない構造として、誤った取付を防止する。

【0131】(5) 廃トナーボックスの容量を中間転写ベルト 360 の寿命に対応させ、中間転写ユニット 300 とともに廃トナーボックスも交換される構造とし、取扱い性を向上させる。

【0132】<シーケンスに関し>

14

(1) 露光書き込みタイミングの基準となる中間転写ベルト 360 の位置検出を行なう際には、一次転写のバイアスを印加する、すなわち、位置検出前に一次転写のバイアスを印加することとする。

【0133】このようにすると、4色それぞれの、位置検出から一次転写までの、一次転写位置 T_1 における中間転写ベルト 360 への負荷がほぼ等しくなり、中間転写ベルト 360 上において重ね合わせられる各色トナー像間の位置ズレ（このズレをレジストずれという）を抑制することができる。

【0134】(2) 中間転写ベルト 360 の停止時ににおける、位置検出用マークの位置が、一次転写位置 T_1 よりも上流側にあるようにした。例えば、図 2において M で示す位置にあるようにした。

【0135】このようにすると、中間転写ベルト 360 の回転初期における、バイアス印加による中間転写ベルト 360 の張力が不安定なときに位置検出を行なうことができ、周期ズレによる、レジストずれを回避することができる。

20 【0136】<中間転写ユニット 300 のフレーム 301 に関する>フレーム 301 の側板を絶縁部材で構成することによって、ローラにバイアスを印加するためのローラ軸（および／または軸受部材）に対する絶縁を不要とする。

【0137】また、絶縁部材として ABS 樹脂を用いることによって、フレーム 301 の熱膨張率を、中間転写ベルト 360 のそれとほぼ同じにし、温度変化による相対位置ずれを防止することができる。

【0138】

30 【実施例】以下、さらに具体的な実施例について説明する。

【0139】以下の説明は、主として転写プロセスについてのものである。

【0140】<一次転写効率の安定化を図るために>

(1) 一次転写のインピーダンスが大きいとき（略 $30 \text{ M}\Omega$ 以上のとき）は定電流に、インピーダンスが小さいとき（略 $30 \text{ M}\Omega$ 以下のとき）には、定電圧制御となる高圧電源を用いた。

【0141】これによって、トナー量（膜厚）、環境、

40 オンビード抵抗にバラツキがあったとしても、良好な転写がなされるようにした。

【0142】(2) 中間転写ベルト 360 の表面抵抗を $10^9 \sim 10^{12} \Omega/\square$ 、体積抵抗率を $10^9 \sim 10^{12} \Omega \text{ cm}$ とした。

【0143】また、一次転写ローラ 320 は、カーボンを分散したウレタン樹脂による弹性層を金属製のシャフト（直径 12 mm）の外周面に形成したローラ（直径 22 mm）とし、その抵抗は $10^9 \sim 10^{12} \Omega$ （より好ましくは $10^9 \Omega$ 程度）とし、硬度は 45 ± 5 とし、感光体 110 に対する圧接荷重は $1.0 \sim 3.5 \text{ kg}$ （よ

り好ましくは2.5 kg程度)とした。

【0144】以上のような抵抗値の範囲とすると、1200V以下で転写が可能となる。

【0145】また、以上のような硬度および荷重の範囲とすると、いわゆる中抜けを防止することができる。

【0146】尚、硬度は、当業者ならば周知のAshker-C硬度計により測定されるものであるが、このような硬度計はいわゆる押し込み硬度と呼ばれるものであって、弹性層の厚さによる影響を受けるものであることに注意しなければならない。本発明における硬度とは、弹性層を構成する弹性体単体を測定したものではなく、ローラに成形した状態で測定された結果である。

【0147】(3) 使用するトナーの外添剤の量については、大粒径の外添剤の量を0.5~4.0wt%

(より好ましくは0.7wt%程度)とし、小粒径の外添剤の量を1.5~4.0wt% (より好ましくは2.0wt%程度)とした。

【0148】大粒径の外添剤は、主にトナーの耐久安定性を向上させるために必要であり、この点からすれば多いほど良いが、4.0wt%を越えると、トナーの流动性が悪くなり、中抜けその他に影響して好ましくないからである。

【0149】また、小粒径の外添剤は、主にラフ紙の転写性を向上させるために必要であり、この点からすれば多いほど良いが、4.0wt%を越えると、浮遊シリカが引き金となり、感光体110や中間転写ベルト360がフィルミングし易くなつて好ましくないからである。

【0150】以上(1)~(3)の条件により、一次、二次同時転写時の干渉による画像劣化を防ぐとともに、高圧電源の容量を必要最小限に抑えることができる。

【0151】(4) トナーの粒径は、9μm以下とした。

【0152】9μm以上であると、解像度が低下するからである。

【0153】なお、今回用いたトナーの粒度分布を図4に示した。このトナーの粒度分布は、コールター・カウンター model TA-IIを用いて測定した。アバーチャー径は100μm、電解液はISOTON-IIを用いた。

【0154】図4(a)に示す表では、右欄に個数を、左欄に体積を、そして下段に測定結果を、上段にこの測定結果に基づいて計算した計算値を示した。なお、「体積」というのは、測定されたトナー粒子が球であるとみなした場合の体積である。

【0155】図4(b)(c)に示すグラフにおいて、棒グラフは、個数データを、折れ線グラフは累積データを示している。

【0156】図4(a)に示す表中、下段の測定結果を示す項目の意味は次の通りである。

DIF N:最も基本的なデータであり、I/Oから入

力される個数データ(トナーの個数データ)を各チャンネルごとに表示したものである。

DIF %:上記個数データ(DIF N)を各チャンネルごとに%表示したものである。

CUM N:上記個数データ(DIF N)を累積して表示したものである。

CUM %:上記DIF %を累積して表示したものである。

【0157】また、上段の計算値を示す項目の意味は次の通りである。

25.4μ↑:25.4μm以上のものの累積%値を表示したものである。

6.35μ↓:6.35μm以下のものの累積%値を表示したものである。

KURTSIS:分布の尖度(とがり度)を表したものである。体積粒度分布においては0.8以上、個数粒度分布においては0.3以上とすることにより転写性の良好な、かつ、解像度の低下のない画像を得ることができる。

20 SKEWNESS:分布の歪度を表したものである。体積粒度分布においては絶対値で0.6以下、個数粒度分布においては絶対値で0.1以下とすることにより転写性の良好な、かつ、解像度の低下のない画像を得ることができる。平均:算術平均粒径を表示したものである。

25%:累積%が25%に達したときの、粒子径の値である(図4(b)(c)のグラフ参照)

50%:累積%が50%に達したときの、粒子径の値である(図4(b)(c)のグラフ参照)

75%:累積%が75%に達したときの、粒子径の値である(図4(b)(c)のグラフ参照)

30 CV%:変動係数(%)である。体積粒度分布、個数粒度分布ともに28%以下とすることにより転写性の良好な、かつ、解像度の低下のない画像を得ることができる。

SDμ:標準偏差(μm)である。

【0158】(5) トナーの形状

トナーの形状係数は、例えば日立製作所製F E-S EM(S-800)を用いて倍率500倍に拡大したトナー像を100個無作為にサンプリングし、その画像情報をインターフェースを介して例えばニコレ社製画像解析装置(Luzex III)を導入し解析を行い、下式より算出し得られた値を形状係数と定義する。

【0159】形状係数(SF-1) = $(MXLNG)^2 / AREA \times \pi / 4 \times 100$

形状係数(SF-2) = $(PERI)^2 / AREA \times 1 / 4\pi \times 100$

尚、上式中、MXLNGはトナーの絶対最大長を示し、PERIは、トナーの周長を示し、AREAはトナーの投影面積を示す。

【0160】形状係数SF-1はトナーの丸さの度合を

示し、形状係数SF-2はトナーの凹凸の度合を示す。トナーの形状係数SF-1は、好ましくは、100~150、さらに好ましくは100~130が良い。また、トナーの形状係数SF-2は、好ましくは、100~140、さらに好ましくは、100~125が良い。このように形状係数SF-1及びSF-2を構成することにより、一次転写及び二次転写における転写効率が向上する。

【0161】本発明の実施の形態においては、トナーとして、流動性についてはA. D 0. 35 g /cc以上 の高流動性のトナーを用いる場合においても、このような高流動性のトナーを用いる場合において、転写位置に転写電圧を印加するための転写電極として機能する一次あるいは二次転写手段がそれぞれの転写位置に接触しているために、転写位置における転写電界を転写位置に集中させることができ、さらに転写位置において転写手段を圧接するとともに、形状がほぼ球状でありかつ表面の凹凸が少ない滑らかなトナーを用いることで、転写位置においてトナー像をその高さ方向に圧縮することが容易であるため、トナー間の凝集力が高まり、その結果、転写効率が向上し、同時に、中抜けをさらに良好に防止することができる。また、感光体（あるいは記録媒体）と中間転写ベルトとの転写位置における両者の僅かな速度差等に起因する機械的力によるトナー像の乱れをも良好に防止することができる。

【0162】また、画像の乱れを生ずることなくトナー像を高さ方向に容易に圧縮することができるため、記録媒体上においてトナー像を定着する際において、トナ一相互の溶融を促進し、発色性、透明性の良好な画像を形成することができるという効果もある。

【0163】<二次転写効率の安定化を図るために>
(1) 二次転写のインピーダンスが大きいとき（略20MΩ以上のとき）は定電流に、インピーダンスが小さいとき（略20MΩ以下のとき）には、定電圧制御となる高圧電源を用いた。

【0164】これによって、紙種、環境、および部材抵抗にバラツキがあったとしても、良好な転写がなされるようにした。

【0165】(2) 中間転写ベルト360の表面抵抗を $10^6 \sim 10^{11} \Omega/\square$ 、体積抵抗率を $10^8 \sim 10^{12} \Omega \text{cm}$ とした。

【0166】また、二次転写ローラ380は、過塩素酸リチウムなどのイオン導電剤をウレタン樹脂中に分散あるいは溶解させた弹性層を金属製のシャフト（直径15mm）の外周面に形成したローラ（直径25mm）とし、その抵抗は $10^6 \sim 10^9 \Omega$ とし、硬度は 60 ± 5 とし、バックアップローラ350に対する圧接荷重は5.0~9.0kg（より好ましくは7.0kg程度）とした。

【0167】以上のような抵抗値の範囲とすると、40

00V以下、200μA以下で転写が可能となる。

【0168】尚、硬度は、当業者ならば周知のAshker-C硬度計により測定されるものであって、前述のように、本発明における硬度とは、弹性層を構成する弹性体単体を測定したものではなく、ローラに成形した状態で測定された結果である。

【0169】また、バックアップローラ350は、接地し、アースローラとした。

【0170】(3) 使用するトナーの外添剤の量については、大粒径の外添剤の量を0.5~4.0wt%（より好ましくは0.7wt%程度）とし、小粒径の外添剤の量を1.5~4.0wt%（より好ましくは2.0wt%程度）とした。

【0171】その理由は前述した通りである。

【0172】<用紙等の記録媒体Sの裏面汚れを防止するために>二次転写ローラ380が中間転写ベルト360に当接している時で、紙間もしくは色間時に、トナーを中間転写ベルト360に戻す方向の電圧（0~-600V程度）を印加するようにした。

【0173】(3) 20このように構成すると、二次転写ローラ380に付着するトナーが低減し、記録媒体Sの裏面汚れが低減される。

【0174】<ラフ紙（ボンド紙）に対しても良好な転写がなされるようにするため>
(1) 二次転写ローラ380は、その硬度を 60 ± 5 とし、バックアップローラ350に対する圧接荷重は5.0~9.0kg（より好ましくは7.0kg程度）とした。

【0175】(2) 使用するトナーの外添剤の量については、大粒径の外添剤の量を0.5~4.0wt%（より好ましくは0.7wt%程度）とし、小粒径の外添剤の量を1.5~4.0wt%（より好ましくは2.0wt%程度）とした。

【0176】また、トナーとしては、粒径7μm程度の高濃度顔料トナーを用いた。

【0177】(3) 40二次転写前のトナー量、すなわち、中間転写ベルト360上のトナー量を、1.5mg/cm²以下とした。

【0178】以上(1)~(3)の構成とすることによって、ニーナボンド紙のようなラフ紙に対しても良好な転写状態を得ることができる。

【0179】すなわち、二次転写ローラ380を上記のような高硬度とし、これに与える荷重を高くすることによって、用紙表面をトナーに密着させることができ、高電界を形成しても、放電による転写不良が抑制される。なお、高荷重によって用紙の搬送状態も安定化する。

【0180】さらに、二次転写前のトナー量を上記のように少なくすることにより、トナーの転写効率を高めることができる。

【0181】<中抜けを防止するために>

(1) 中間転写ベルト360の材質は、導電剤としてカーボンブラック等を分散させたETFEもしくはフッ素微粒子含有ウレタン塗料をコートしたアルミ蒸着PETもしくは導電剤としてカーボンブラック等を分散させたポリイミドとした。

【0182】なお、感光体110の材質は、ポリカーボネイトとした。

【0183】(2) 一次転写ローラ320は、その硬度を $4.5 \pm 5^\circ$ とし、感光体110に対する圧接荷重を $1.0 \sim 3.5 \text{ kg}$ とした(尚、一次転写位置でのローラ軸方向における接触幅は 3.58 mm である)。

【0184】(3) 二次転写ローラ380は、その硬度を $6.0 \pm 5^\circ$ とし、バックアップローラ350に対する圧接荷重は $5.0 \sim 9.0 \text{ kg}$ とした(尚、二次転写位置でのローラ軸方向における接触幅は 3.32 mm である)。

【0185】(4) 使用するトナーの外添剤の量については、大粒径の外添剤の量を $0.5 \sim 4.0 \text{ wt\%}$ (より好ましくは 0.7 wt\% 程度)とし、小粒径の外添剤の量を $1.5 \sim 4.0 \text{ wt\%}$ (より好ましくは 2.0 wt\% 程度)とした。

【0186】また、流動性についてはA.D.0.35 g/cc程度とした。

【0187】以上のような構成とすると次のような作用効果が得られる。

【0188】すなわち、一次転写部においては、感光体110から中間転写ベルト360への転写条件が、低硬度、低荷重、高流動性トナーとなっているので、中抜けが防止される。

【0189】二次転写部においては、中間転写ベルト360からの転写条件が高硬度、高荷重となっているが、中間転写ベルト360の材質がフッ素系となっており、高流動性トナーとなっていることによって、中抜けが防止される。

【0190】また、二次転写手段の荷重を一次転写手段の荷重よりも高くすることにより、中間転写ベルトの耐久性を向上させることが出来る。これは、中間転写ベルトに対するトナーのフィルミングは、中間転写ベルト上に残留したトナーの外添剤が中間転写ベルトの表面を清掃するクリーニングブレードなどのクリーニング手段により中間転写ベルトに埋め込まれ、そこを起点に発生するものであること、外添剤の遊離は一次転写時に順次色重ねをする際に発生しやすいこと、トナーから遊離して中間転写ベルト上に付着した外添剤はトナーあるいは紙の存在下で一定以上の荷重で押圧すると中間転写ベルトよりも比較的柔らかいトナーや紙の繊維中に再付着するため、外添剤を中間転写ベルトから除去することが可能であるという本発明者らの知見に基づくものである。ところで、一般的に、一次転写ローラ320は常時、中間転写ベルト360に圧接しており、一方、二次転写ローラ

380は色重ねが終了したフルカラー画像を転写する時には中間転写ベルト360に圧接するが、各色の画像が順次形成されている間は中間転写ベルト360から離間している構成とされる。しかしながら、このような構成において、一次転写ローラ320の荷重を中間転写ベルト上の遊離した外添剤をトナーにより除去可能な荷重以上に設定すると、既に中間転写ベルト上に形成されているn色目の画像にn+1色目の画像を色重ねをする際にn色目の画像の一部が中間転写ベルトから感光体へ戻る現象(いわゆる逆転写)が生じるため、二次転写ローラ380の荷重を一定以上の荷重とし、一方、一次転写ローラ320の荷重を一定以下の荷重とすることが好ましい。本発明の実施の形態において、実験的に得られた荷重(トナー存在下で外添剤が中間転写ベルトから除去されるために必要な荷重)は 1.50 g/cm 以上であり、好ましくは 2.00 g/cm 以上である。

【0191】一次転写において逆転写が生じないようにするためにには、本発明の実施の形態において、実験的に得られた荷重は、 1.00 g/cm 以下であり、好ましくは 0.70 g/cm 以下である。

【0192】したがって、一次転写手段と二次転写手段のそれぞれの荷重の比は、1.5以上、好ましくは2以上である。

【0193】また、荷重による一次及び二次転写ローラの撓みを防止するために荷重に応じた剛性を各ローラのシャフトが有することが必要であり、したがって、一次転写ローラよりも二次転写ローラの方がシャフトの外径が大きいことが好ましい。

【0194】<散り(トナーの飛散)を低減するために>

(1) 一次転写位置(一次転写部)T1の上流側近くに歛取りローラ330を設けた。

【0195】(2) 使用するトナーの外添剤の量については、大粒径の外添剤の量を $0.5 \sim 4.0 \text{ wt\%}$ (より好ましくは 0.7 wt\% 程度)とし、小粒径の外添剤の量を $1.5 \sim 4.0 \text{ wt\%}$ (より好ましくは 2.0 wt\% 程度)とした。

【0196】また、流動性についてはA.D.0.35 g/cc程度とし、帯電量は $-10 \mu C/g$ 以上とした。

【0197】(3) 中間転写ベルト360の表面粗さは、 $R_{max} 1 \mu m$ (より好ましくは $0.7 \mu m$)以下とした。

【0198】また、中間転写ベルト360の表面抵抗を $10^8 \sim 10^{11} \Omega/\square$ 、体積抵抗率を $10^8 \sim 10^{12} \text{ cm}$ とした。

【0199】以上のような構成とすると次のような作用効果が得られる。

【0200】すなわち、一次転写部においては、歛取りローラ330によって中間転写ベルト360の歛が低減

し、散りが抑制される。

〔0201〕二次転写部においては、中間転写ベルト360上のトナーが安定して搬送され、散りが抑制される。

〔0202〕<低コスト化を図るために>

(1) 中間転写ベルト360は、AL蒸着したシート状のPET上に、ウレタンをベースとしPEFT粒子および導電剤としてのSnOを分散させた塗料を塗布し、両端を超音波融着で接着して無端状の中間転写ベルト360を構成する。

【0203】なお、両端接着によって生じる段差は50 μm 以下、より望ましくは30 μm 以下とする。塗料のヤング率は、 $1.5 \times 10^4 \text{ kg f/cm}^2$ 程度とする。塗料の表面抵抗は、 $10^8 \sim 10^{12} \Omega/\square$ 程度とし、表面粗さはRmax 1 μm （より好ましくは0.7 μm ）以下ととする。電極構成は、端縁部のAL面に導電層を印刷し、ローラ電極（1 M Ω 以下）によりバイアス印加する構成とする。

〔0204〕(2) 高圧電源は、一次転写部について
は電流吸い込み型の定電圧制御とし、二次転写が終了す
るまで一次転写電圧を印加することとする。

【0205】以上(1)(2)のような構成とすると、転写効率およびクリーニング性を向上させることができる。

【0206】また、一次転写ローラについては、これをバックアップローラとしてのみ機能させ、電極として機能させる必要がなくなる。

* [0207] さらに、上記の電極構成および電源構成とすることにより、一次、二次同時転写時の干渉による画質劣化を抑えることができる。

【0208】供給ローラの駆動トルクが低減するという著しい効果がある。

【0209】以上、本発明の実施の形態および実施例について説明したが、本発明は上記の実施の形態または実施例に限定されるものではなく、本発明の要旨の範囲内において適宜変形実施可能である。

10 [0210]

【発明の効果】本発明の中間転写ユニットによれば、転写時の中抜けを防止しするとともに、ラフ紙への良好な転写を実現する事が出来、さらに中間転写ベルトの耐久性を向上させることが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る中間転写ユニットの一実施の形態を用いた画像形成装置の一例を示す模式図。

【図2】 主として中間転写ユニット300を示す一部省略側面図。

20 【図3】 齒車列の主要部分を示す図。

【図4】 本発明の実施の形態におけるトナーの粒度分布の一例を示す図。

【符号の説明】

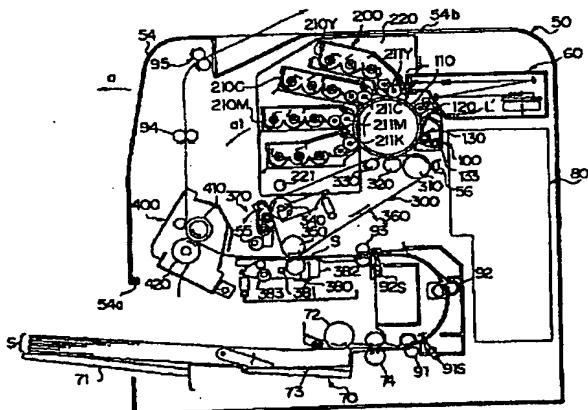
110 感光体

T 1 一次転写位置

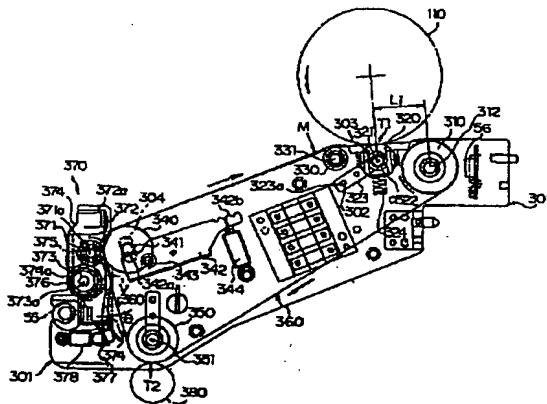
T 2 二次転写位置

360 中間転写ベルト

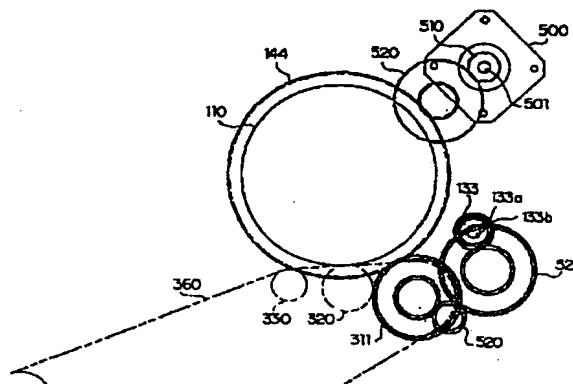
〔圖 1 〕



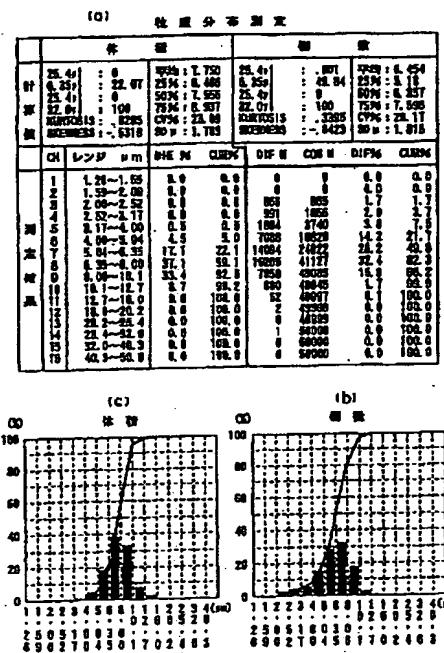
【図2】



【図3】



【図4】



【手続補正書】

【提出日】平成14年5月22日(2002.5.2)
2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 感光体上に形成されたトナー像が一次転写位置において一次転写され、このトナー像をさらに記録媒体に二次転写位置において二次転写する中間転写ベルトと、前記一次転写位置において前記中間転写ベルトは前記感光体と前記中間転写ベルトの内側に配置される一次転写手段により圧接され、前記二次転写位置において前記中間転写ベルトは前記中間転写ベルトの内側に配*

*置されるバックアップ手段と前記中間転写ベルトの外側に配置される二次転写手段により圧接され、更に、前記中間転写ベルトの内側に配置されて中間転写ベルトを駆動する駆動ローラが配置される中間転写ユニットとからなり、前記感光体の周速と前記中間転写ベルトの周速とに速度差を設け、前記一次転写位置と前記駆動ローラとの間における中間転写ベルトを常に張り状態とした画像形成装置であって、前記トナーの綴み見掛け密度が0.35 g/cc以上、かつ、前記トナーの形状係数SF-1が150以下、かつ、SF-2が140以下であることを特徴とする画像形成装置。

【請求項2】 駆動ローラが、前記一次転写位置と前記二次転写位置との間に配置され、感光体の周速に対して中間転写ベルトの周速を早くしたことを特徴とする請求項1記載の画像形成装置。

フロントページの続き

(72)発明者 高畠 俊哉

長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコ
ーエブソン株式会社内

(72)発明者 伊東 博

長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコ
ーエブソン株式会社内